

日本フードシステム学会
2012年度秋季研究会

フード・コミュニケーション

FCPから発展した新たな概念

2012年11月17日

東京大学大学院農学生命科学研究科

中嶋 康博

これまでの活動の展開

- 農林水産省フード・コミュニケーション・プロジェクト
 - 協働の着眼点（抜粋版としての「ベーシック16」）
 - 研究会・勉強会
 - 開発ツール
- 農林水産政策科学研究委託事業「消費者重視など社会的責任の観点から見た食品事業者の行動の分析・検証並びに当該行動の透明性向上及び評価の適正化に関する研究（新たな食の信頼向上活動の効率性及び政策支援の有効性に関する研究）」
(平成22～24年度)
 - 産官連携活動⇒産官学連携活動へ発展
 - 「学」の役割：評価

研究活動

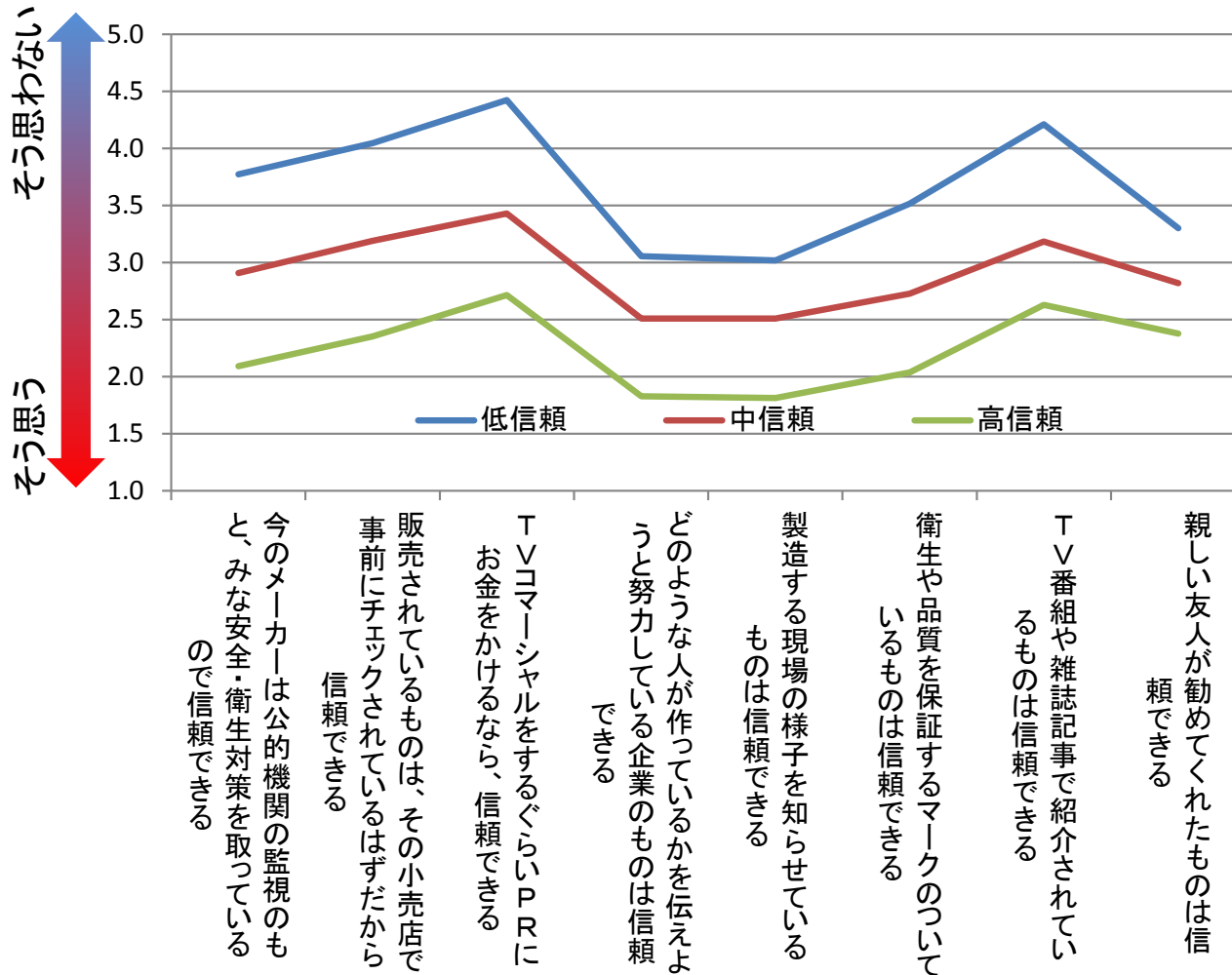
- 食の信頼低下の現状把握
- 「食の信頼」とは何か：概念・枠組み整理
→食の信頼論の構築
- 食の信頼向上活動の手法の検討
- 食の信頼向上活動の効果検証

成果

- 食品に対する高信頼・低信頼型消費者の発見
 - 消費者コミュニケーションにおけるアプローチと役割分担
- 懸念の連鎖(不信の玉突き)構造の解明
- 食の信頼論における2つの視角
 - 食の経験と食の信頼
 - (広義の)フードチェーンにおける食のステークホルダーの安全確保行為に対して信頼できるかどうか(食の信頼)が、食の安心を形成する
- 安心と信頼のパラドックスの発見
- 産官学連携型教育のあり方と可能性の検証

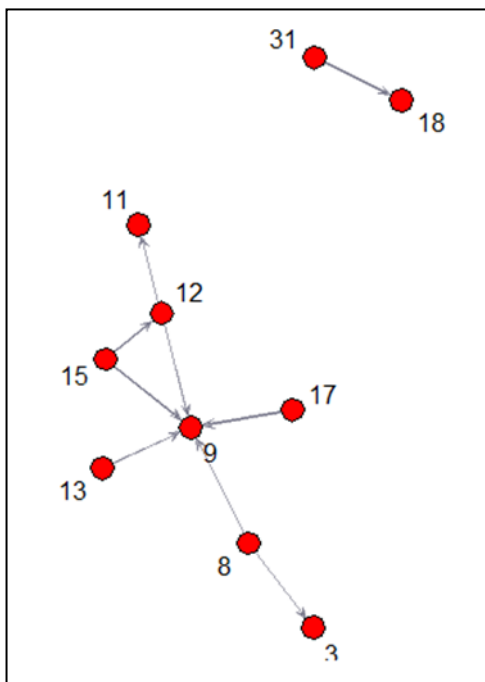
食品に対する高信頼・低信頼型消費者の発見

回答をもとに、クラスター分析によって個人を3グループ
【①低信頼, ②中信頼, ③高信頼】に分類

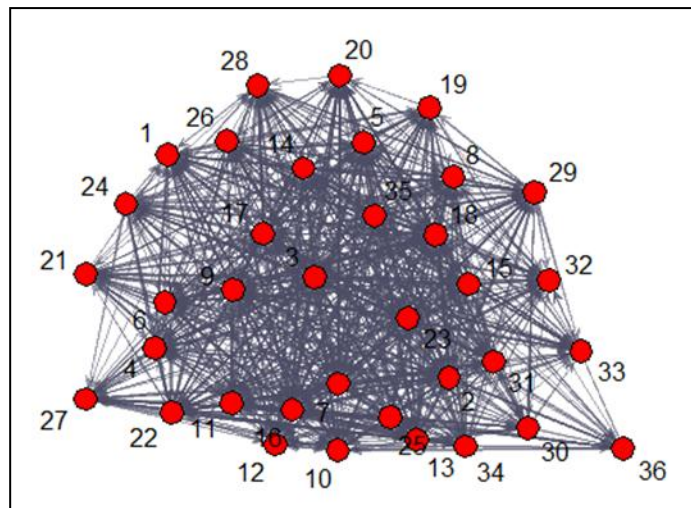


懸念の連鎖(不信の玉突き)構造の解明(1)

〈原材料ミスによる不信〉

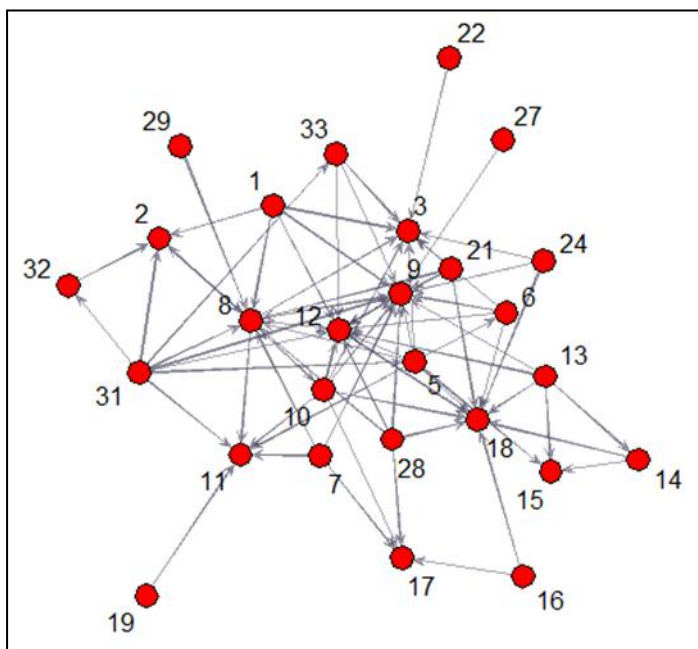


【高信頼】



【低信頼】

【中信頼】

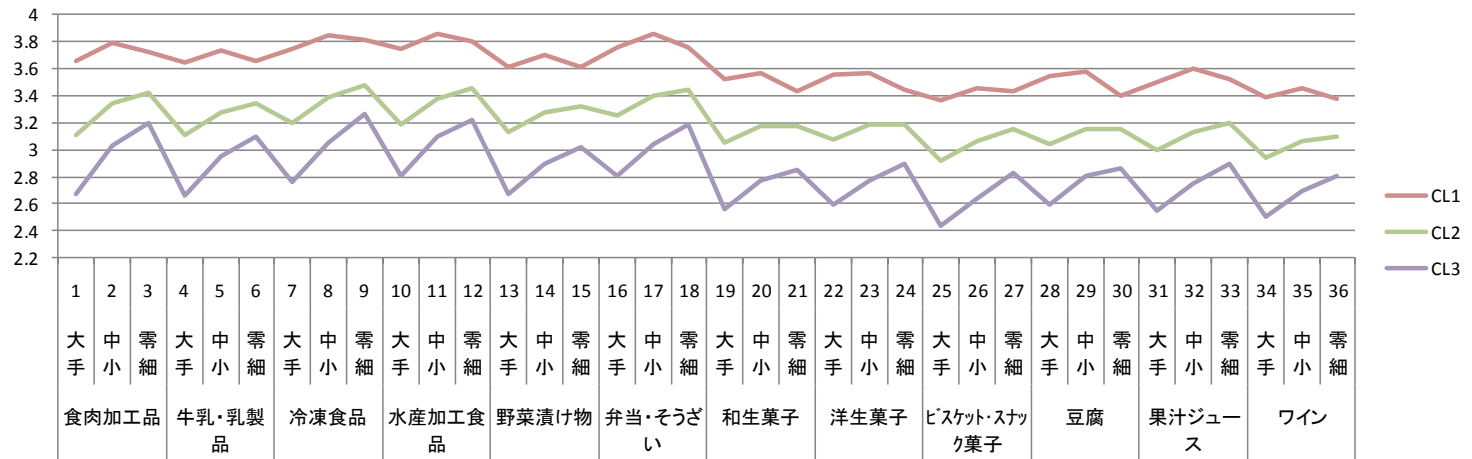


懸念の連鎖(不信の玉突き)構造の解明(2)

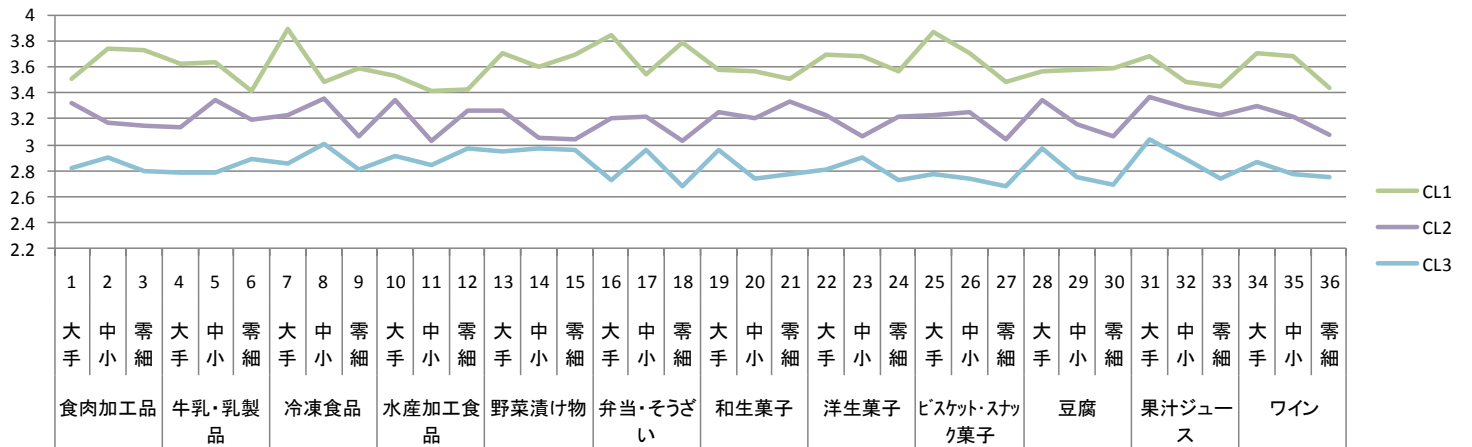
〈原材料ミスによる不信〉

CL1: 低信頼 / CL2: 中信頼 / CL3: 高信頼

巻き込まれ度

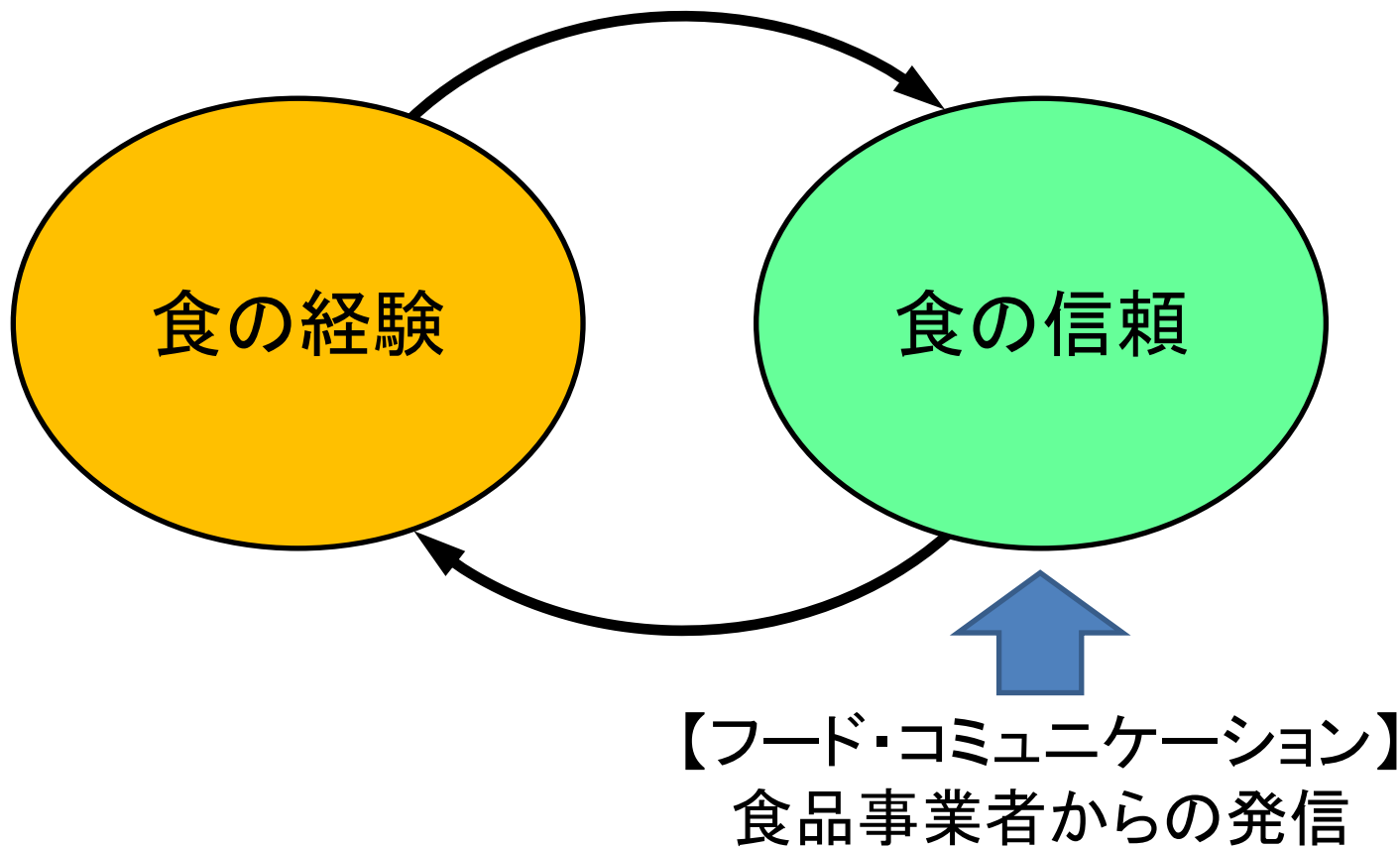


巻き込み度



食の信頼論における2つの視角(1)

〈食の経験と食の信頼のループ〉

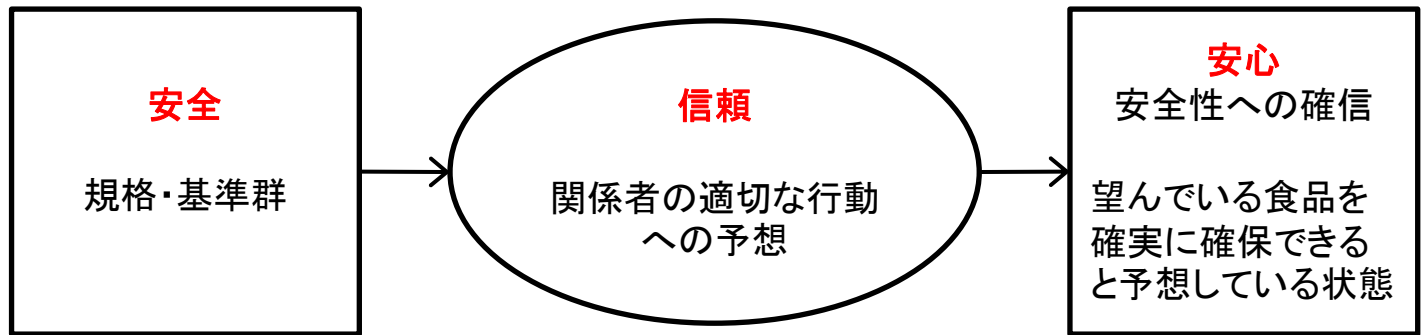


経験と信頼のループを強化する、復活させる

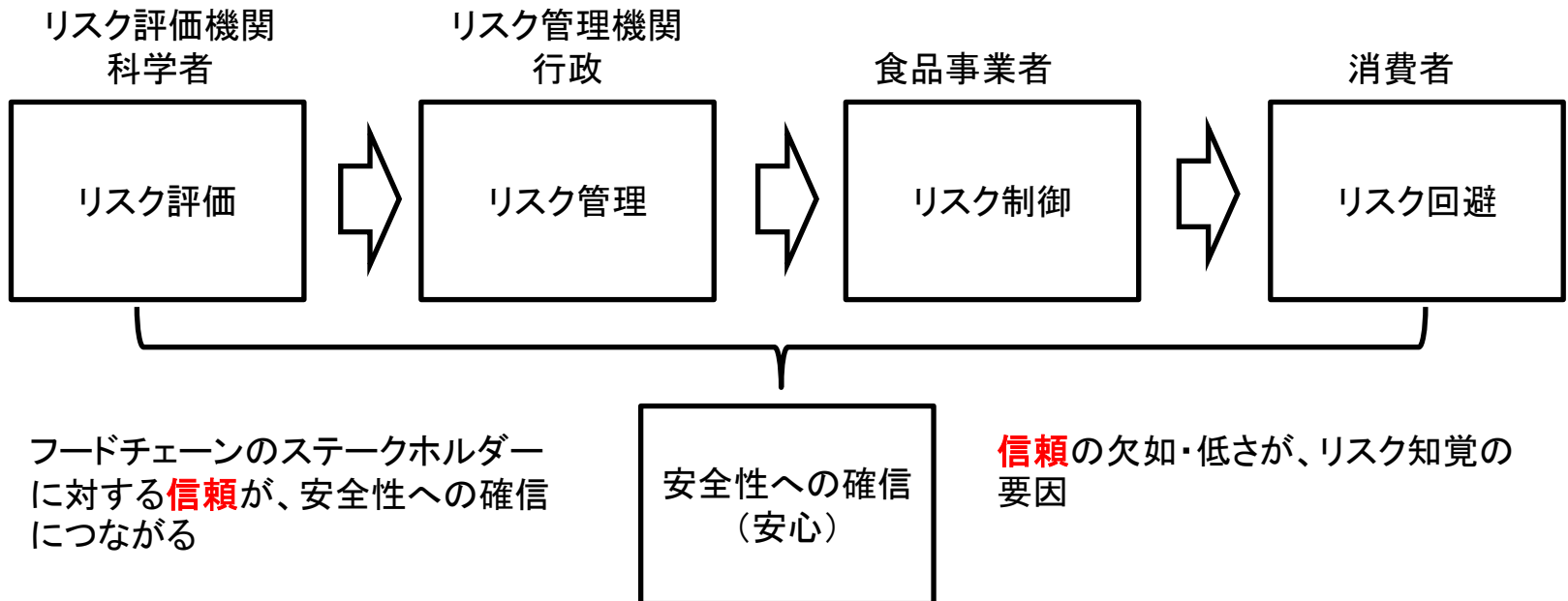
食の信頼論における2つの視角(2)

〈食の安心における信頼の役割〉

基本モデル

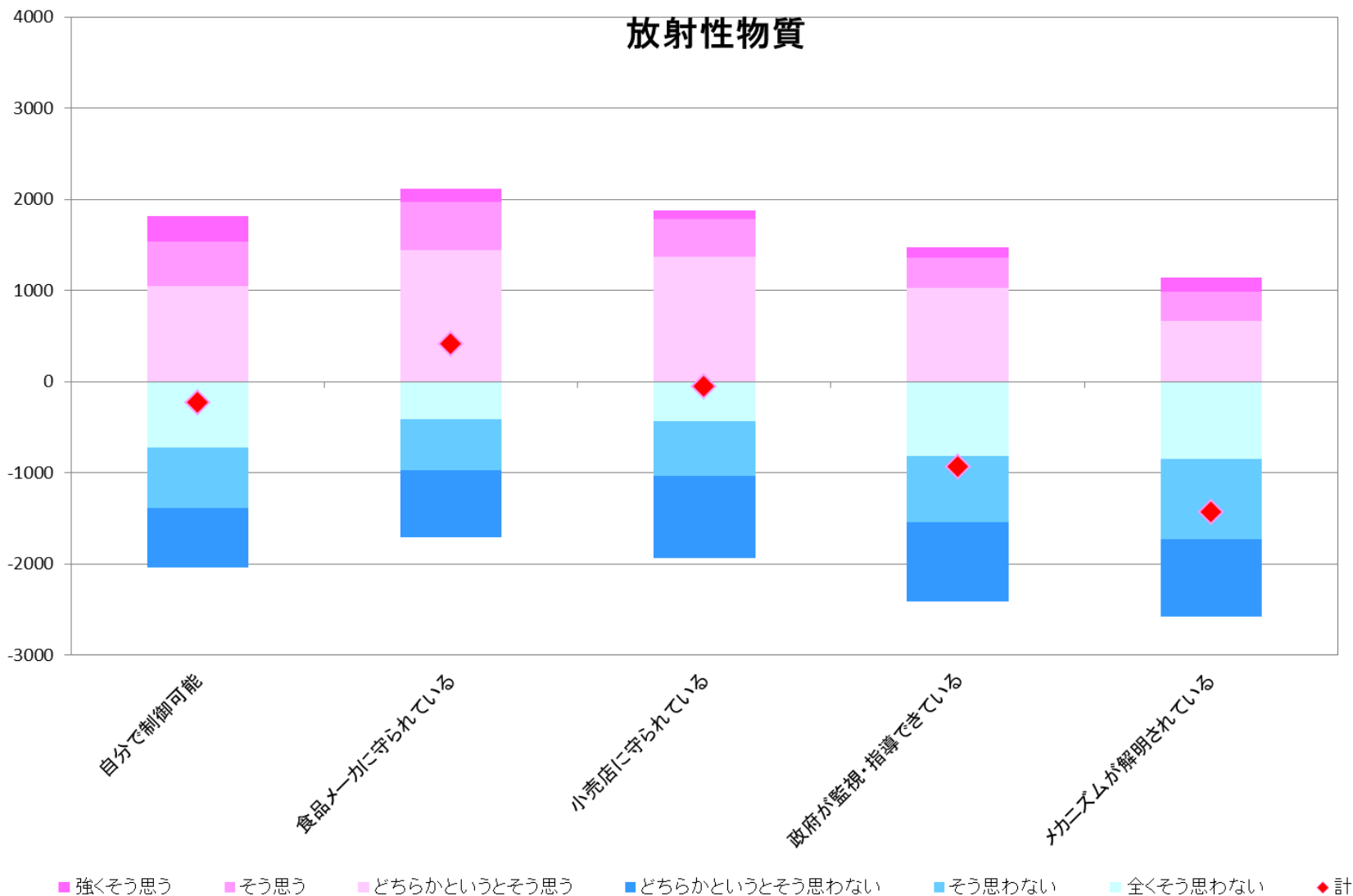


フードチェーン
モデル



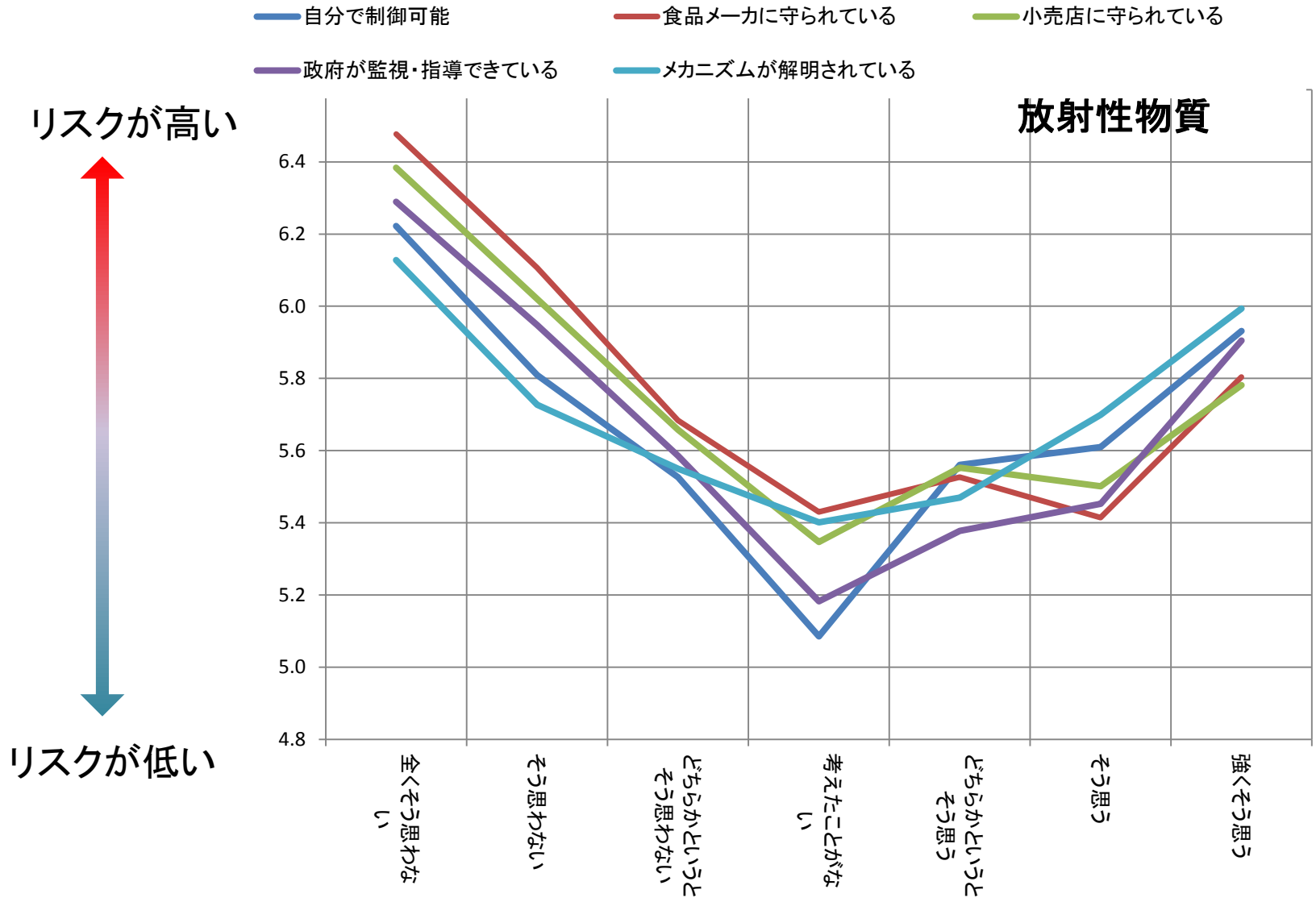
安心と信頼のパラドックスの発見(1)

〈リスク低減の可能性についての意識〉



安心と信頼のパラドックスの発見(2)

〈制御可能性とリスク知覚〉



産官学連携型教育のあり方と可能性の検証



FCP研究のさらなる発展へ向けて

- 卓越した「コミュニケーション」の意義
 - 「食の情報」提供の必要性：新しい（ネオポストモダン型）消費社会における規範
 - 「食の情報」構築の可能性：隠さない、囲い込まないことが生み出す経済的可能性
 - 食の情報を伝える手段・社会的制度としての「フード・コミュニケーション」の可能性

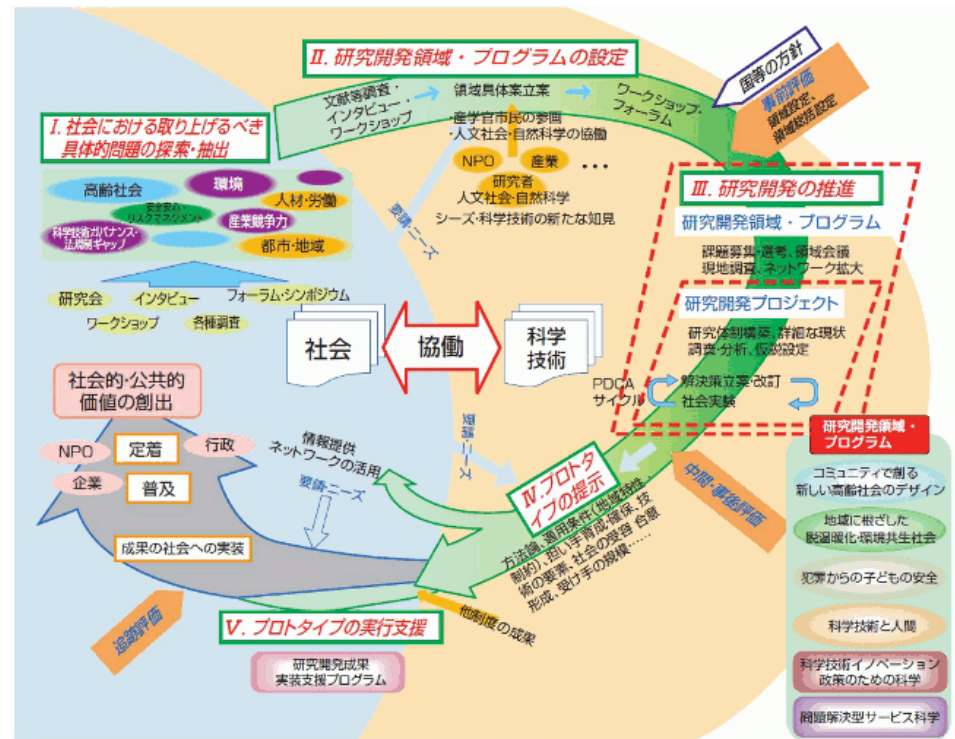
未来への展望

◇「社会技術」としての「フード・コミュニケーション (FC)」の可能性

• 社会技術

– 堀井秀之『問題解決のための「社会技術」』『社会技術論』

– (独)科学技術振興機構「社会技術研究開発センター (RISTEX)」



未来への展望

◇「学」の新たな役割：評価から設計へ

- 考慮すべき事項

- 食料産業（農業・食品産業）と消費社会において、共通して観察され、これまでも、そしてこれからも維持されるであろう「多様性」、「柔軟性」、「零細性」、「伝統性」に配慮し、「新規性」、「革新性」、「科学性」を充実させること

未来への展望

◇「学」の新たな役割：評価から設計へ

- 食の安全・信頼確保における事業者の自発的な取り組み⇒フードチェーンにおける全てのステークホルダーの参加
- 安全・信頼手法の開発：パラダイムの展開
 - 行政規制⇒企業の自主管理⇒フードシステム全体での協働の取り組み
 - 安全・品質保証＋卓越したコミュニケーション（リスク分析との類似性、ただし利害関係者によるコミュニケーションが信頼をいかに得るかというさらなる信頼問題の存在）

未来への展望

◇FCの基礎研究

- 消費者調査：情報と行動に関する社会科学分野の学融合的分析（経済学、心理学、信頼論）
- 「表示」を超える「フード・コミュニケーション（FC）」⇒ 情報技術の適用可能性の検討
- 協調・協働型のシステム設計の可能性⇒信頼ゲーム、ネットワーク協カゲームなどによる互酬性研究

未来への展望

◇FCの応用研究

- 情報の標準化⇒新たな表示手法
- 信頼度指標
- 認証制度（標準情報の適合性、情報の真正性の評価と伝達手段）⇒国際的展開
- 農業版協働の着眼点⇒フードチェーンをフルカバー
- 地域振興：6次産業化、農商工連携支援
- 産官学連携型の新しい食育（大学・大学院・市民教育における「食の信頼論」「フード・コミュニケーション論」）

ご静聴ありがとうございました